

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム であい		
所在地	山口県阿武町大字木与39番地の5		
電話番号	08388-2-0220	事業所番号	3578100442
法人名	社会福祉法人 阿武福祉会		

訪問調査日	平成 21 年 11 月 6 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人 非常勤 2 人 (常勤換算 8.4 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 20,460 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	日額 780円			
その他の費用	月額 15,500 円			
	内訳 光熱水費			

### (4) 利用者の概要 (10月23日現在)

利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	2	要介護 5	1
	要介護 3	3	要支援 2	
年齢	平均 83.8 歳	最低 72 歳	最高 93 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 斉藤医院 歯科 和田歯科
-------------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	三食とも事業所で調理され、職員が交代で食事の献立に携わり、利用者の好みを聞き、法人の栄養士の指導を受けて栄養バランスのとれた食事を提供されています。一人ひとりの自主的な生活を大切にされ、魚をさばくなどの得意分野を活かしてもらったり、買い物、調理・後片づけなど、出来ることを一緒に行いながら支援されています。「食事が一番の楽しみ」といわれる利用者もあり、誕生会やクリスマス会、おせちなどで、美味しいものを楽しく食べる工夫をしておられます。
(特徴的な取組等)	法人施設が隣接しており、法人の盆踊りやお祭りには送迎バスで地域の人々を送迎され、ボランティアの人が夜店やバザーを開店され、地域の人が約300人参加されています。利用者は賑やかな場で楽しく知人と交流されています。中学生と一緒に餅つきをしたり、家族以外にも知人の面会が頻繁にあり、開放的な事業所として受け入れて、利用者が生き生きと過ごせるように支援しておられます。

## 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	職員会議で話し合い、苦情処理手続きの明確化や書類の整備等、出来るところから改善に取り組まれています。
(今回の自己評価の取組状況)	職員は各項目を分担してグループ協議し、全体会議で発表・協議し、計画作成者がまとめて管理者や職員に回覧し、再度確認して作成されています。職員は評価の意義について理解し、ケアの見直しをしておられます。
(運営推進会議の取組状況)	自治会長、老人クラブ会長、民生委員、町担当職員、利用者、家族、管理者、職員のメンバーで、年2回開催し、現状報告、職員の異動、介護保険情報、ボランティアの協力依頼、地域の情報などで意見交換をしてサービスに活かしておられます。
(家族との連携状況)	年3回発行の事業所便りを送付し、面会や電話等で、暮らしぶりや健康状態などを報告し、要望等を聞かれています。法人の祭りや盆踊り大会には、ほぼ全員の家族が参加され、家族との連携を深められています。利用者の顔写真入の年賀状を利用者から家族に出されています。
(地域との連携状況)	自治会に加入され、地域の祭りや敬老会などの地域行事に参加されたり、法人の祭りや盆踊り大会、併設施設に訪れた地域の方の面会、中学生と一緒に餅つき、ボランティアの来訪、散歩や買い物などで、地域の人と交流しています。地域に複数の清掃作業ボランティアグループがあり、年5回程度施設周辺の清掃をされています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「生活を通して、家族、地域との交流を図る」という地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を廊下に掲示し、ケアカンファレンスなどで、どう支援していくか話し合い、理念を共有し、日々のケアに取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、地域の祭りや敬老会などの地域行事に参加し、法人の祭りや盆踊り大会、中学生との餅つき、ボランティアや知人の来訪、散歩や買い物などで、地域の人と交流している。ボランティアグループが年5回程度施設周辺の清掃をしている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員は各項目を分担してグループ協議し、全体会議で発表・協議し、計画作成者がまとめて管理者や職員に回覧し、再度確認して作成している。職員は評価の意義について理解し、ケアの見直しをしている。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自治会長、老人クラブ会長、民生委員、町担当職員、利用者、家族、管理者、職員のメンバーで、年2回開催し、現状報告、職員の異動、介護保険情報、ボランティアの協力依頼、地域の情報などで意見交換をしてサービスに活かしている。	・開催回数の増加の検討
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	町の担当課に出向いたり、電話で相談や情報収集をしている。町の担当者が来訪し、地域の方の認知症の対応や地域の声を把握するなど、お互いに連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年3回発行の事業所便りを送付し、面会や電話などで、暮らしぶりや健康状態などを報告し、要望等を聞いている。法人の祭りや盆踊り大会には、ほぼ全員の家族が参加している。利用者の顔写真入りの年賀状を利用者から家族に出している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話、運営推進会議等で家族の意見や苦情を聞き運営に反映している。苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定めている。第三者委員は選任しているが、明示や周知はしていない。	・第三者委員の明示と周知
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤7名、非常勤2名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みには、話し合いで勤務調整したり、併設の法人から応援がある。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限になるよう努力している。異動の場合は、重複勤務を約2ヶ月間設けて、利用者へのダメージを防ぐよう配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の内部研修が月1～2回計画され、外部研修も勤務の一環として参加できる。研修後は職員会議で復命し、資料は共有できるようにしており、段階に応じたスキルアップに努めている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修等で親しくなった同業者と連絡を取り合っ情報交換に努めているが、近隣の同業者と交流する機会も少なく勉強会等もしていない。	・近隣の同業者との交流を深める検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に本人と家族に施設見学をしてもらい、利用者や職員と一緒にお茶を飲んだり、時には一緒に食事をとりながら馴染みの関係づくりをしている。家族と相談しながら、職員が家庭訪問をして馴染めるように工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>家事などを一緒に行い、調理の味付けや魚のさばき方などを教わったり、散歩時に地域のことや木の名前を聞いたり、一緒に生活を楽しみながら、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のかかわりの中で、利用者の言葉やありのままの姿を介護日誌に記入し、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族からの情報や表情や動作から把握し本人本意に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスを月1回(1~2時間)開催し、本人や家族の希望や主治医の意見書、担当者の意見を取り入れて話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>6ヶ月毎に見直しをしている。状態に変化が生じた場合は、家族、管理者、職員、必要な関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎と付き添い、美容院への送迎、外食、自宅訪問、ドライブ、入退院の送迎、退院後の医療機関との連携の支援等、柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を確認しているが、協力医療機関がかかりつけ医になり、月2回定期的に往診をしている。緊急時なども適切な医療が受けられるよう連携をとって支援している。受診結果は家族に報告している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に方針を説明しているが、実際に重度化や終末期をむかえた場合は早い段階から家族や医師に相談し、全員が方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシー保護マニュアルがあるが、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応についての研修は未実施であり、何気ない言葉かけの中に認識が薄い場面が見受けられた。記録物は事務室に保管し、個人情報の取り扱いに注意している。	・接遇研修(認知症対応)の実施 ・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけの全職員への徹底
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、日々のかかわりや介護日誌から希望の過ごし方の状況を把握し、その人らしい暮らしができるように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食とも事業所で調理し、利用者の好みや希望の献立を聞いて職員が交代で献立を作り、調理や盛り付け、配膳、後片づけなど出来ることを一緒にしている。職員は同じものを一緒に食べながら、食事を楽しめるよう支援している。誕生会や季節の行事には、特別食にしている。夕食時に晩酌をする利用者もいる。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日14時から18時頃までとしているが、夜間入浴も可能で、利用者の希望やタイミングに合わせて楽しめるよう支援している。入浴が好きではない人の場合は、隔日入浴にしたり、2日間隔をあけてお誘いするなど、工夫しながら支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事会、歌、ドライブ、クリスマス会、地域の祭りには手作り作品(タオルエプロン手拭)を出展したり、法人の盆踊り大会や敬老会などで楽しんでいる。調理、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、活躍出来る場面づくりをして支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブなど、利用者本位の外出支援をしている。車椅子利用者も戸外に出て季節を肌で感じられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、内部研修で学び、職員は身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵の弊害を正しく理解しており、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら職員が見守りながら同伴しているが、併設施設の職員も注意している。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルがあり、ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記録し、改善策も記入して回覧し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成しているが、利用者の急変や事故発生時に備えた応急手当や初期対応の定期的な訓練は行われていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に火災訓練(避難を含む)を実施している。併設施設や地域住民の協力も得られている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は病歴表と合わせて投薬表として個人記録にファイルされ、職員全員が日頃から確認して理解している。薬はその都度手渡しし、服用を見届けている。必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後に歯磨きを実施できるように、一人ひとりのペースに合わせて声かけをしながら支援している。義歯は每晚洗浄し、歯ブラシは定期的に変換して清潔保持に努めている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人の栄養士に年1回、1ヶ月分の献立表を点検してもらい、栄養バランス等の指導を受けている。食事や水分摂取量を記入し、刻み食にしたり食事の介助をして適量摂取ができるよう支援している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルに従って、手洗い、うがいの励行、ペーパータオルの使用などを行なっている。感染症の対応等についての研修を受講している。インフルエンザ予防接種は全員受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関に入ると大きなかめに季節の花が生けられ家庭的な雰囲気となっている。外が眺められくつろげる場所にソファが置かれている。天井が高く自然なやわらかい採光が共用空間に差し込んでいる。調理の様子や音、匂い、季節の花などで生活感や季節感があり、畳のスペースやソファなどで居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や思い出の写真や品物、生活用品などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。ベッド、整理ダンス、テレビ等が備え付けてある。	

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホームであい
所在地	山口県阿武郡阿武町大字木与39-5番地
電話番号	08388-2-0220
開設年月日	平成17年4月1日

### 【実施ユニットの概要】 (10月23日現在)

ユニットの名称	グループホームであい			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 1名	女性 8名	
	要介護1	2名	要介護4	1名
	要介護2	2名	要介護5	1名
	要介護3	3名	要支援2	
年齢構成	平均 83.8歳	最低 72歳	最高 93歳	

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	H21,10,3のカンファレンス終了後、管理者、職員を交えて討議をする。自分たちの行なっているケアを見直し、反省点、改善点を話し合い今後の対応法を考える。その後、協議を重ね、H21,10,23に記入する。
評価確定日	平成21年10月23日

### 【サービスの特徴】

- ・家庭的な雰囲気の中で、お一人ひとりに寄り添った、きめ細かなサービスを心掛けます。
- ・それぞれの思いに十分に耳を傾け、今までに送ってこられた生活が継続、維持できるように支援いたします。
- ・家族や知人、地域の方々に自由に立ち寄りいただける様に環境作りに勤めます。
- ・周囲の方々に、認知症の理解を求める努力を致します。
- ・認知症の為に失いかけてきた自信や、生きがいを取り戻し、笑顔で日々が送れるように努めます。
- ・不安ない安定した生活環境が提供できるよう、併設の施設、医療機関や、地域の住民との連携を図ります。
- ・地域の祭り、敬老会、行事等に積極的に参加し、地域との交流を図ります。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		今後も、管理者、職員同士、話し合いをしながら取り組んでいく。
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		今後も、職員間でサービスの質の向上に向け話し合いを十分に持つ。
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		今後も地域に認知症への理解を得られるように努める。
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		今後も、交流が持てるように努める。
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		情報収集に努め、参加できる体制を作る。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		認知症の理解や関わりについて、教室を開催し、理解と協力を求める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果を踏まえて、改善策を話し合い、それを実施しながら、サービスの質の向上に努めている。	常に改善点を話し合い、統一したサービスが提供できるように実行して行く。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	参加メンバーより、率直な意見を多く聞き出し、改善に向け、具体的な取り組みに繋げていく様に努める。	運営推進会議の機会を多く持ち、広く意見を聞き、運営に反映して行く。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村と生じた課題の解決法を、協議できる体制を設けている。	今、以上に深めていく。
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修に参加することで、理解は出来ている。利用者、家族等と情報を交換を行い、必要であれば、支援できる体制を取っている。	支援できる体制を作っていく。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や苑内研修の参加により、職員間の共通理解が出来ている。常に情報収集を行い虐待が無い様に注意をはらっている。	虐待が無いように情報収集し、防止に努める。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族に対して契約書や重要事項説明書等の理解が得られるように十分な説明を行なっている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内で家族会議を開催し、和やかな雰囲気の中で要望や意見を出して頂ける様な機会を持っている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族が面会に来られた時に、利用者の様子、健康状態、金銭管理について説明している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	家族からの要求があれば、プライバシーに支障が無い程度に、利用者の個人記録等の提示をする。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情の窓口を設け、契約書にも記載されている。苦情が寄せられた時には、解決策を話し合い、解決した上で外部に明記する。現在は、苦情が寄せられていない。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	自由に意見が出し合える雰囲気作りをしている。挙げられた意見は検討し実践できるように繋げている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の生活スタイルに合わせてローテーションが組まれており、日勤者から夜勤者への引継ぎを必ず行い、状況に応じた職員体制を取っている。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	やむを得ず職員が交代する場合は、新しい職員に利用者の説明や対応法を十分に引き継ぎ、利用者が混乱しないように努める		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修が計画されており、スキルアップに努めている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	利用者の個々の支援の為に、幅広い年齢層や経験を持っている職員を配置し、柔軟な対応ができる様に努めている。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修等で交流した他の同業者と連絡を取り合い情報交換する事で、サービスの向上に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会できる体制を取ったり、一緒に食事や外出できる様、利用者との交流ができるように支援している。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	利用者のホーム内での様子が分かるように写真を掲示したり、面会時、本人の状況等を説明、理解を求め、コミュニケーションがとられるように支援している。		今後も家族との関係が、円滑に行くように支援を考えていく。
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行き付けの美容院や、町内の商店に行ったり又、家族や友人が気軽に立ち寄れるような支援を心掛けている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者間でのトラブルが生じた場合は、さり気なく介入し、解決するように努めている。食事やお茶等は居間で皆と一緒に過ごしている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族等からその後の経過を聞いたり、本人や家族の相談を受けたりしてフォローしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者を理解する為、コミュニケーションを取って、日々の生活の中で本人の要望・思いを汲み取るように心掛けている。		利用者の思いを十分に聞き、利用者本位のケアをいつも心掛ける。
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や近隣の人より情報提供して頂き、その人の生活歴を大切に独自のリフスタイルを作り出せるように手助けをしている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活リズムは経過表や業務日誌等で把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の意向や立場に立ち、カンファレンス時に、意見を出し合い、反映したプランを考えている。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化のあった時には、家族の要望等や管理者、職員、関係者で話し合いを持ち対応している。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイル・食事量・水分量のチェック・排泄表の記入などを必ず記入し、情報を共有してケアにあたっている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療が必要になった利用者には、受診や入院の手続き、入退院の送迎、又退院後の生活を医療機関と連携を取りあっている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員や各方面からのボランティアの方より、清掃作業、行事の協力を頂いており、必要時には直ぐに要請できる体制が整えてある。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	研修会の講師として出向いたり、見学、ボランティアの受け入れを随時、行なっている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他の介護支援専門員やサービス事業者との連携を取り合い、情報収集をしている。	今後も情報収集を行なって行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		マニュアルに沿った対応法の実習をして、緊急時に対し、統一したケアができるようにしておく。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人ファイルが保管されている所は、いつも施錠しており、プライバシーを確保している。利用者の声掛けにも注意しているが、利用者を傷つけてしまう事がある。</p>	<p>利用者の尊厳を守るような声掛けを考える。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定の手助けをしているが、時には職員サイドで決めてしまう事がある。</p>	<p>利用者に分かるように十分説明し、自己決定できるように常に心掛ける。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者の力に合わせて声掛けをしており、意欲的に家事をこなしている利用者もいる。</p>	<p>利用者に応じて“出来る力”を見出していく。</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の希望を聞き、ドライブや買物等に出かけることもある。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者の行き付けの美容院にいける様に予約をし送迎も行なっている。利用者には季節感や場所を考えたおしゃれが出来るように心掛けている。</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニューを考えたり、出来る事を一緒にする。又、誕生日会や家のイベントの時には利用者の希望が叶うように支援する。</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲酒は本人の体調を見ながら、家でのイベント時など、提供している。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表により、利用者の排泄パターンを把握し、オムツを使用しないで過ごせるように支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		体調に合わせて、戸外に連れ出せるような機会を持つ。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		希望が叶うように支援する。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		希望が叶うように支援する。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		希望があれば対応する。寝具等の準備もしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		看護師の協力を仰ぎ、勉強会を開き実際に訓練を取り入れて行きたい。
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		発生の原因を常に考え、繰り返さないように心掛ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周辺には花を植え、季節感を感じる工夫をしている。玄関口には見えやすい表札を掲げている。又、スロープや手すり等で安全に移動できる様に配慮している。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	採光を充分に取ってある造りで自然な光の中で心地よく暮すことが出来る。又、天井が高い造りで威圧感を与えない工夫がされている。不快感を与えない様に換気、掃除に気を配っている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳の間を儲け、冬場にはコタツを出して、少人数でくつろぎやすい環境を作っている。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れている家具や大切な物、思い出のある品等を持ち込んで頂いたりして、今迄の暮らしとのギャップが無い様な環境作りをしている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	不快な臭い、空気の入替えの為換気に気をつけている。又、室内の温度差に気を付け温度調整をしている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	廊下に手すりが無かったり、玄関に段差があったり、生活の中で身体機能の低下が防止できている。職員は安全確保に努めている。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所、居室を間違えている利用者には、解りやすく説明し混乱を最小限度に抑えるように努める。	混乱を最小限度に抑えられる対応策を常に話し合い実践する。
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランターを置き花を育てたり、畑で野菜作りをしたり、洗濯物を干したりしている。夏にはバーベキュー大会、花火等を楽しむ事もある。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない